

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 7 月 7 日現在

機関番号：14403

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02643

研究課題名(和文)近代中国における「童話」の成立 - 日本児童文学との交渉を軸に

研究課題名(英文)The establishment of the concept of "tonghua" in modern China- based on the relationship between Japanese Children's literature

研究代表者

成實 朋子 (Narumi, Tomoko)

大阪教育大学・教育学部・教授

研究者番号：40346226

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：現在中国において「童話」という用語は子どものために書かれた創作的な物語を指す用語として用いられているが、この童話という用語は、20世紀初頭に日本語から借用されたものとされている。本研究においては、清末民初の頃の中国の子どものための雑誌を検証し、初期の中国児童文学における日本の影響について、「童話」という用語の受容と成立に注目しながら検証し、明治期においては巖谷小波のお伽噺が、大正期においては小川未明の童話が初期の中国児童文学において与えた影響が非常に大きいことを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究を通じてまず明らかになったことは、日中両国における児童文学の最初の接触が、清末民初であるということである。中でも『蒙学報』に紹介された巖谷小波のお伽噺について発見したことは、日本と中国の児童文学史を鑑みる上で、非常に大きな意義があったと言える。この件は日中両国においてこれまで指摘されたことが無く、児童文学史の見直しにつながるものであると言える。また、民国期の童話に関しては、小川未明の童話を中心に、「童話」という文芸が、同時代の日本・中国・韓国において広く発展していたということを考察することができた。このことは、東アジア児童文学史を考える基盤となった。

研究成果の概要(英文)：In China the term "tonghua" is used to refer to fairy tales and literally children's tales. This term tonghua was borrowed from the Japanese, in the first decade of the twentieth century. This study examined the articles in children's magazines during the late Qing period and early Republican era, and considered the establishment of the concept of "tonghua" in modern China. I found out many works were translated from Japanese. In the late Qing period many works of Iwaya Sazanami's otogibanashi, and in early Republican era, many works of Mimei Ogawa's dowa were translated from Japanese. Through this study revealed Mimei Ogawa's dowa was noticed as the standard of tonghua in modern China, and found out early works of Chinese children's literature were heavily influenced by cultural contact with Japan and Japanese children's literature.

研究分野：日中比較児童文学

キーワード：日中比較 児童文学 近代 童話 清末民初 巖谷小波 小川未明

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

児童文学の中心的なジャンルをあらわす用語である「童話」は、日中両国において同じように用いられているが、中国における「童話」という用語は、日本由来であるとされながらも、なかなかその検証は充分になされてこなかった。この件も含め、近代における日中両国の児童文学の文化接触についての研究は、これまで主に中国大陸の資料公開が未整備であったため、資料が十分に確認できず、なかなかすすまなかった。しかしながら、近年中国の図書館等の整備がすすんだため、実証的な研究が可能となったため、本研究を申請するに至った。

2. 研究の目的

近代中国における童話及び児童文学に関する実証的な歴史研究である。近代童話に関する資料収集を行い、それを日中比較児童文学の観点から分析し、日本児童文学の影響について考察する。「童話」という用語は、日本においては明治期より、中国においては清末民初の頃より共に児童を対象とする教育読物を表す言葉として使われ始め、1920年代になり、ともに新興の文芸のスタイルとして広く認知されるようになった。本研究においては、日本から移入した「童話」という概念が、中国においていかに受容され、発展していったかという過程を、当時出版されていた児童雑誌等を検証することによって明らかにする。

3. 研究の方法

日中両国における近代童話に関する資料収集を行い、それを基に、日中比較児童文学の観点から、近代中国において、日本から伝わった童話という言葉と概念がどのように中国において受容され、中国において童話という文芸がいかに発展してきたのかということをも解明する。中国においては、上海図書館を中心に北京の国家図書館・南京図書館等の資料も検証する。加えて台湾にある民国期の資料、また東京の東洋文庫や国会図書館等にある資料も併せて収集し、検討した。

4. 研究成果

・資料の調査・収集について

本研究は近代中国における童話及び児童文学の実証的な歴史研究である。2017年度においては、まずは中国語による近代童話に関する資料収集を行った。資料収集の先としては、主に上海図書館を選び、2017年9月に同館を訪問し、清末雑誌を多数閲覧した。特に他に所蔵の無い『小孩月報』を詳しく確認することができたことが収穫である。

民国期の資料に関しては、台湾の高雄図書館と中国大陸の南京図書館・金陵図書館にも所蔵が認められるということで、2018年3月にこれらの図書館にも調査を行った。殊に高雄市立図書館においては、「童話」関連の蔵書を多数確認することができた。

2017年度の資料を整理した後に、2018年度は更に詳しく検証するために、上海図書館(8月)・日本近代文学館(12月)・北京国家図書館(3月)・台湾台東大学(3月)・高雄市立図書館(3月)等を訪問し、所蔵資料の調査収集を行った。北京国家図書館においては、『児童世界』の未入手分を確認することができた。また、台東大学においては、児童文学研究所・游珮芸所長の案内により、台東大学図書館所蔵資料を確認することができた。

2019年度においては、上記の成果をふまえ、最終調査として9月に上海図書館を再訪し、宮沢賢治の中国語訳に関する資料等を入手した。これまでの調査の不足を補う調査を2020年3月に予定していたが、コロナの影響もあり、調査は中断した。

・本研究で明らかになったこと

以上のような資料収集を行ったことにより、日本と中国の児童文学の最初の接触が清末期に見られ、民国期に「童話」という形で発展していったことが明らかになった。

中国における本格的な近代児童文学の開始は五四時期（1919年～）であるが、公教育の普及という点から言えば、キリスト教宣教師による子ども向け刊行物はその萌芽となる。日本においては1876年にキリスト教宣教師によって発行された『よろこばしきおとづれ』がその代表的なものであるが、中国では1876年より出版されていた『小孩月報』がそれにあたる。今回の調査により、両誌の交流の痕跡が誌面から確認された。加えて、本研究の最大の成果は、日本の創作児童文学の中国語初訳が、『蒙学報』に掲載された巖谷小波のお伽噺であるということを示した点である。『蒙学報』は明治期に博文館が刊行していた雑誌『少年世界』から記事の多くを翻訳紹介してきた。『少年世界』第4巻13号（1898年6月）にも、『蒙学報』への記事借用の件は載っている（103頁）。『蒙学報』（第七冊からは『蒙学書報』）は、清末の上海において出されていた少年向けの定期刊行物であり、発行元は蒙学公会という光緒23（1897）年に上海に設立した組織である。『蒙学報』に翻訳紹介された『少年世界』を由来とする文章のうち、最もまとまった形で翻訳紹介されていたのが、巖谷小波の「新伊蘇普物語」であった。巖谷小波による「新伊蘇普物語」というのは、『少年世界』誌に1897年10月1日号より毎号5話前後ずつ載せられていたものであり、後年博文館から単行本として出版（1903年）された。読者から寄せられた二つの事項（二題）を組み込んで小波が噺を作るという趣向のものであった。

「新伊蘇普物語」から『蒙学報』に翻訳されたものは、合計7編が確認され、『蒙学報』創刊号から第6冊まで集中的に掲載されていた。『蒙学報』は1897年11月からの刊行なので、ほぼ一カ月遅れで、リアルタイムに訳出されていたということになる。これは管見の限りにおいて、日本の創作児童文学の最初の中国語訳である。

しかし『蒙学報』では、巖谷小波のお伽噺に「童話」という言葉は使用されていなかった。中国で「童話」という言葉が最初に用いられたのは、1908年の『童話』叢書である。ここにはグリムやアンデルセンの童話を含め、多くの海外の名作の再話も載せられていた。日本の「童話」が深く中国「童話」に関与するようになるのは、1910年代以降のことである。

理論的に先駆となったのは周作人で、周作人は1911年に日本留学から帰国すると、翌年「童話研究」を書き、童話研究を開始することになった。中国語での創作童話が盛んに試みられるようになるのは1920年代になってからのことで、殊に鄭振鐸をはじめとする文学研究会の同人たちは機関紙『小説月報』に多くの創作童話を発表した。そのような情勢において、当時、日本の童話も数多く翻訳されたが、中でも翻訳件数が多かったのが小川未明である。

小川未明の童話は1920年代から1930年代にかけて、中国の文芸誌を中心に翻訳紹介され、個人童話集も翻訳出版された。本研究においては、民国期において、小川未明童話が積極的に中国で翻訳されていた実態を明らかにした。

・研究成果の公表について

以上の研究成果について、主に2018年に国内外で成果の公表を行った。まず2018年8月に中国の長沙で行われたアジア児童文学大会に参加し、「民国時期中国における日本童話と朝鮮童話の翻訳紹介について」と題する研究発表を行った。これは上述の小川未明に関する童話の研究を中心に、民国期中国において広がった「童話」という文芸について考察したものである。この発表内容は中国語で論文としてまとめられ（中国語執筆も自身による）、中国で刊行された同大会論文集に収録された。日本国内では、同年11月開催の日本児童文学学会第57回研究大会（文教大学・越谷キャンパス）において、研究発表を行った。これは上述の巖谷小波に関する研究についてまとめたものである。2019年度は、それまでの研究資料の不足を補った上で、日本児童文学学会関西例会等で研究発表等を行う予定であったが、コロナの影響等があり、2019年度に成果発表を行うことは叶わなかった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 成實朋子
2. 発表標題 清末『蒙学報』誌における日本児童文学の翻訳 巖谷小波「新伊蘇普物語」を中心に
3. 学会等名 日本児童文学学会第57 回研究大会（文教大学・越谷キャンパス）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 成實朋子
2. 発表標題 民国時期中国における日本童話と朝鮮童話の翻訳紹介について
3. 学会等名 第14回アジア児童文学大会（国際学会）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 成實朋子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 湖南少年児童出版社	5. 総ページ数 263
3. 書名 童年書写的想像与未来（本人執筆分 1ページ～6ページ）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----